ミツバチと共生する里山作りを目指して

■発 表 者：鈴木　一（ＮＰＯ法人　ハナノモリ理事長）
■主催団体：ＮＰＯ法人　ハナノモリ
■発表内容

私たちは、千葉県君津市、木更津市、袖ケ浦市を中心に里山保全活動や植樹活動を行っている市民活動団体です。昨今、新聞やテレビのニュースなどで報道されているように、いま日本の里山からミツバチなどの生き物が急激に姿を消しています。この現象は千葉県では２００９年から始まり、千葉県だけでなく、日本全体、いや地球規模での大きな問題となっています。
ミツバチがいなくなると、花や果樹などの作物の受粉ができなくなり、人間の食料問題にとって重大な問題を引き起こすだけではなく、自然界の生態系にも大きな影響をもたらします。ミツバチが激減している原因は、いまだに明らかにされてませんが、里山の環境破壊や、水質汚染、農薬や電磁波の問題など、複合的な問題が原因であるとされています。

また、戦後、日本の里山は、日本在来の落葉広葉樹が杉やヒノキなどの針葉樹に取って変わり、人の手が入らず、そのほとんどが放置された状態にあります。本来の里山は、人間の生活と密着しており、人間と自然とが共生する事で持続可能なものとなっていました。このまま、里山が放置され続けるということは、人間と自然との共生も持続できなくなってしまいます。

ミツバチという生き物は、まさに里山の象徴であり、人間と自然とを繋ぐシンボルです。放置された里山に蜜源となる落葉樹を植樹することで、里山に多様性が生まれ、豊かな生態系が生まれます。また、耕作放棄地に花の種を蒔くことで、里山の景観が保たれ、人が集まり、そこにコミュニティーが生まれます。ミツバチと共生できる里山は、人間にとって持続可能な社会を約束してくれます。

ＮＰＯ法人ハナノモリは今年の春に千葉県から認可をいただいたばかりの小さな団体ですが、蜜源植物の苗木作りや、耕作放棄地に花の種を蒔くなど、いまできることから一歩一歩進んでいるところです。温暖で、緑豊かな君津の森が本来の豊かさを取り戻すために一生懸命頑張っています！